

2019年6月12日

株主各位

第72回定時株主総会招集ご通知に際しての  
インターネット開示事項

株主資本等変動計算書

個別注記表

連結株主資本等変動計算書

連結注記表

(2018年4月1日から2019年3月31日まで)

**株式会社トーハン**

株主資本等変動計算書、個別注記表、連結株主資本等変動計算書および連結注記表につきましては、法令および定款第14条の規定に基づき、インターネット上の当社ウェブサイト (<http://www.tohan.jp/>) に掲載することにより株主の皆様を提供しております。

# 株主資本等変動計算書

(平成30年4月1日から  
平成31年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本									
	資 本 金	資本剰余金		利 益 剰 余 金						自己株式
		資本準備金	利益準備金	そ の 他 利 益 剰 余 金						
				配当準備 積立金	固定資産 圧縮積立金	買換 圧縮 勘定	資産 特別 積立	別 積立 金	繰越 利益 剰余金	
当 期 首 残 高	4,500	1,130	1,125	800	933	142	92,281	2,660	97,943	△2,219
事 業 年 度 中 の 変 動 額										
剰 余 金 の 配 当								△405	△405	
固定資産圧縮積立金の積立					70			△70	－	
固定資産圧縮積立金の取崩					△36			36	－	
別 途 積 立 金 の 積 立							1,500	△1,500	－	
自 己 株 式 の 取 得									－	△384
当 期 純 利 益								652	652	
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)										
事業年度中の変動額合計	－	－	－	－	34	－	1,500	△1,287	247	△384
当 期 末 残 高	4,500	1,130	1,125	800	967	142	93,781	1,373	98,190	△2,603

	株 主 資 本	評 価 ・ 換 算 等	純 資 産 計
	株 主 資 本 計	そ の 他 有 価 証 券 金 評 価 差 額	
当 期 首 残 高	101,354	1,347	102,701
事 業 年 度 中 の 変 動 額			
剰 余 金 の 配 当	△405		△405
固定資産圧縮積立金の積立	－		－
固定資産圧縮積立金の取崩	－		－
別 途 積 立 金 の 積 立	－		－
自 己 株 式 の 取 得	△384		△384
当 期 純 利 益	652		652
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)		△137	△137
事業年度中の変動額合計	△137	△137	△274
当 期 末 残 高	101,216	1,210	102,427

## 個別注記表

### 1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

- (1) 資産の評価基準及び評価方法
- ① 有価証券の評価基準及び評価方法
- 満期保有目的の債券……………償却原価法により評価しております。  
子会社株式及び関連会社株式……総平均法による原価法により評価しております。  
その他有価証券  
時価のあるもの……決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は総平均法により算定）により評価しております。  
時価のないもの……総平均法による原価法により評価しております。
- ② たな卸資産の評価基準及び評価方法  
個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）で評価しております。なお、定価に仕入掛率を乗じて個別の取得原価を算定しております。
- ③ デリバティブ  
時価法を採用しております。
- (2) 固定資産の減価償却の方法
- ① 有形固定資産（リース資産を除く）  
定率法を採用しております。  
ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しております。  
なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。  
建物及び建築物 3～50年  
その他 3～20年
- ② 無形固定資産（リース資産を除く）  
定額法を採用しております。  
なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。
- ③ リース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。
- (3) 引当金の計上基準
- ① 貸倒引当金  
一般債権……………貸倒実績率により計上しております。  
貸倒懸念債権等……個別の債権について回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
- ② 賞与引当金  
従業員の賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。
- ③ 返品調整引当金  
将来発生が予測される商品の返品に伴う負担見込額を計上しております。
- ④ 退職給付引当金  
従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しているほか、執行役員  
の退職慰労金規定に基づき算定した額を計上しております。
- (イ)退職給付見込額の期間帰属方法  
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によ  
っております。
- (ロ)数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法  
数理計算上の差異は各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の年数（12～14年）による定額法により、それぞ  
れ発生翌事業年度から費用処理することとしております。  
過去勤務費用は、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の年数（12～14年）による定額法により按分した額を費用  
処理しております。
- ⑤ 役員退職慰労引当金  
役員に対する退職金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。
- ⑥ 債務保証引当金  
関係会社への債務保証に係る損失に備えるため、財政状態等を勘案し損失負担見込額を計上しております。
- (4) その他計算書類作成のための基本となる重要な事項
- ① リース取引の処理方法  
ファイナンス・リースの取引開始日に、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理により、リース物件とこれに係る債務をリース  
資産及びリース債務として計上しております。
- ② ヘッジ会計の方法
- (イ)ヘッジ会計の方法  
為替予約が付されている外貨建金銭債務について、振当処理の要件を満たしている場合には振当処理を採用しております。
- (ロ)ヘッジ手段とヘッジ対象  
ヘッジ手段・・・為替予約  
ヘッジ対象・・・外貨建金銭債務
- (ハ)ヘッジ方針  
将来発生することが確実な外貨建金銭債務に対し、為替変動によるキャッシュ・フロー変動リスクをヘッジしております。
- (ニ)ヘッジの有効性評価の方法  
為替予約については、ヘッジ方針に基づき、同一通貨建てによる同一金額で同一期日の振当を行っており、その後の為替相場の変動  
による相関関係が確保されているため、決算日における有効性の評価を省略しております。
- ③ 消費税等の会計処理  
税抜方式によっております。

④ 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の未処理額の会計処理の方法は、連結計算書類におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

2. 表示方法の変更に関する注記

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)を当事業年度の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しております。

3. 貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額 44,463百万円

(2) 保証債務

銀行借入に対する保証債務

株式会社ティー・アンド・ジー 60百万円

台湾東販股份有限公司 57百万円

(16百万NTドル)

計 117百万円

上記の外貨建保証債務は決算日の為替相場により円換算しております。

(3) 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

短期金銭債権 22,331百万円

短期金銭債務 2,922百万円

長期金銭債権 2,301百万円

(4) 期末日満期手形及び電子記録債務

期末日手形及び電子記録債務の会計処理について、満期日に決済が行われたものとして処理しております。なお、事業年度末日が金融機関休業日であるため、次の期末日満期手形及び電子記録債務は満期日に交換が行われたものとみなして処理しております。

支払手形 193百万円

電子記録債務 2,317百万円

4. 損益計算書に関する注記

関係会社との取引高

営業取引による取引高

売上高 68,639百万円

仕入高 5,970百万円

営業取引以外による取引高 16,694百万円

5. 株主資本等変動計算書に関する注記

当事業年度末における自己株式の種類及び数

普通株式 3,471,466株

6. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生主な原因別の内訳

繰延税金資産

貸倒引当金損金算入限度超過額 2,060百万円

賞与引当金損金不算入額 174百万円

未払事業税等 41百万円

未払社会保険料 25百万円

減価償却超過額 6百万円

退職給付引当金損金不算入額 1,770百万円

役員退職慰労引当金損金不算入額 190百万円

減損損失 216百万円

その他 1,060百万円

繰延税金資産小計 5,548百万円

評価性引当額 △1,653百万円

繰延税金資産計 3,895百万円

繰延税金負債

その他有価証券評価差額金 △533百万円

固定資産圧縮積立金 △489百万円

その他 △0百万円

繰延税金負債計 △1,024百万円

繰延税金資産の純額 2,871百万円

## 7. 関連当事者との取引に関する注記

役員及び個人主要株主等

種類	氏名	事業の内容又は職業	議決権等の所有 (被所有)割合	取引の内容	取引金額 (百万円)	科 目	期末残高 (百万円)
	相 賀 昌 宏	当社監査役 (株)小学館代表取締役社長	—	商品の仕入	21,163	買 掛 金	5,223

- (注) 1. 取引条件及び取引条件の決定方針等は他の取引先と同様であります。  
2. 取引金額には消費税等を含まず、期末残高には消費税等を含んでおります。

## 8. 1株当たり情報に関する注記

1株当たり純資産額 1,528円11銭  
1株当たり当期純利益 9円69銭

## 9. その他の注記

記載金額は百万円未満を切捨てて表示しております。

## 連結株主資本等変動計算書

(平成30年4月1日から  
平成31年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本				
	資 本 金	資 本 剰 余 金	利 益 剰 余 金	自 己 株 式	株 主 資 本 合 計
当連結会計年度期首残高	4,500	1,264	100,894	△2,229	104,429
連結会計年度中の変動額					
連結会社と非連結子会社との 合併に伴う増減		△45			△45
非支配株主との取引に係る 親会社の持分変動		△9			△9
剰余金の配当			△405		△405
連結範囲の変動に伴う増減			△586		△586
親会社株主に帰属する 当期純利益			531		531
自己株式の取得				△387	△387
株主資本以外の項目の 当連結会計年度変動額(純額)					
連結会計年度中の変動額合計	-	△54	△460	△387	△902
当連結会計年度末残高	4,500	1,210	100,434	△2,616	103,527

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純 資 産 合 計
	その他有価証券 評価差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括 利益累計額合計		
当連結会計年度期首残高	1,616	△344	1,271	568	106,268
連結会計年度中の変動額					
連結子会社と非連結子会社との 合併に伴う増減					△45
非支配株主との取引に係る 親会社の持分変動					△9
剰余金の配当					△405
連結範囲の変動に伴う増減					△586
親会社株主に帰属する 当期純利益					531
自己株式の取得					△387
株主資本以外の項目の 当連結会計年度変動額(純額)	△268	366	98	△27	70
連結会計年度中の変動額合計	△268	366	98	△27	△831
当連結会計年度末残高	1,348	21	1,369	540	105,437

## 連結注記表

### 1. 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記

#### (1) 連結の範囲に関する事項

##### ① 連結子会社の数及び連結子会社名称

連結子会社の数 16社

連結子会社の名称

東販自動車株式会社

株式会社ティー・アンド・ジー

東販リーシング株式会社

株式会社トーハン・コンピュータ・サービス

株式会社トーハン・メディア・ウェイブ

株式会社ブックライナー

株式会社トーハン・メディア・ホールディングス

株式会社東京ブッククラブ

株式会社出版QRセンター

株式会社スーパーブックス

株式会社明屋書店

株式会社トーハンロジテックス

株式会社ブックファースト

株式会社アバンティブックセンター

株式会社文真堂書店

株式会社住吉書房

株式会社トーハン・コンピュータ・サービスは平成30年10月1日付で株式会社トーハン・システム・エンジニアリングを

吸収合併し、株式会社トーハン・システム・エンジニアリングは4月1日から9月30日までの損益計算書のみ

連結しております。

上記のうち、前連結会計年度において非連結子会社であった株式会社住吉書房は、重要性が増したことにより当連結会計年度より連結の範囲に含めております。

##### ② 主要な非連結子会社の名称等

主要な非連結子会社の名称

株式会社メディア・パル他17社

連結の範囲から除いた理由

非連結子会社はいずれも小規模であり、当社と連結子会社の総資産、売上高、当期純損益及び利益剰余金（持分に見合う額）の合計額に対する割合がそれぞれ僅少であるため、重要性が乏しいものとして連結の範囲から除いております。

#### (2) 持分法の適用に関する事項

##### ① 持分法を適用した非連結子会社または関連会社の数及び会社等の名称

持分法適用関連会社の数 5社

会社の名称

株式会社総合教育センター

株式会社東京堂

日本出版貿易株式会社

株式会社三洋堂ホールディングス

株式会社三洋堂書店

上記のうち、株式会社三洋堂ホールディングスは当連結会計年度に新たに株式を取得し、これにより同社傘下の株式会社

三洋堂書店とあわせて持分法適用関連会社としております。

##### ② 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社の名称等

主要な会社等の名称

(非連結子会社)

株式会社メディア・パル他17社

(関連会社)

株式会社デジタルパブリッシングサービス他6社

持分法を適用していない理由

非連結子会社または関連会社はいずれも小規模であり、それぞれ連結純損益及び利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法を適用していません。

##### ③ 持分法の適用の手続について特に記載すべき事項

持分法適用会社のうち、決算日が連結決算日と異なる会社については、各社の直近の事業年度に係る計算書類を使用しております。

#### (3) 連結子会社の事業年度等に関する事項

当連結会計年度において、6月30日が決算日の株式会社明屋書店は、決算日を1月31日に変更しており、連結決算日との間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。なお、当連結会計年度における会計期間は、平成30年1月1日から平成31年1月31日までとなっております。

連結子会社のうち、株式会社文真堂書店及び株式会社住吉書房の決算日はそれぞれ6月30日及び8月31日であります。

連結計算書類の作成に当たっては、株式会社文真堂書店は12月31日現在、また株式会社住吉書房は2月28日現在で実施した仮決算に基づく計算書類を使用し、連結決算日との間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

(4) 会計方針に関する事項

① 重要な資産の評価基準及び評価方法

(イ) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的債券……………償却原価法により評価しております。

その他有価証券

時価のあるもの……………決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は総平均法により算定）により評価しております。

時価のないもの……………総平均法による原価法により評価しております。

(ロ) たな卸資産の評価基準及び評価方法…主として個別法による原価法、一部の連結子会社は最終仕入原価法、売価還元法または先入先出法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法による算定）で評価しております。

なお、定価に仕入掛率を乗じて個別の取得原価を算定しております。

(ハ) デリバティブ……………時価法を採用しております。

② 重要な固定資産の減価償却方法

(イ) 有形固定資産（リース資産を除く）…定率法を採用しております。

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

(ロ) 無形固定資産（リース資産を除く）…定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

(ハ) リース資産……………リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

③ 重要な引当金の計上基準

(イ) 貸倒引当金

一般債権……………貸倒実績率により計上しております。

貸倒懸念債権等……………個別の債権について回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(ロ) 賞与引当金……………従業員の賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

(ハ) 返品調整引当金……………将来発生が予測される商品の返品に伴う負担見込額を計上しております。

(ニ) 役員退職慰労引当金……………役員に対する退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

④ その他連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項

(イ) リース取引の処理方法……………ファイナンス・リースの取引開始日に、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理により、リース物件とこれに係る債務をリース資産及びリース債務として計上しております。

なお、リース取引に関する会計基準の改正適用初年度開始前に取得した所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(ロ) 退職給付に係る会計処理の方法

・退職給付見込額の期間帰属方法……………退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

・数理計算上の差異及び過去……………数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の年数（10～14年）による定額法により、それぞれ発生の日連結会計年度から費用処理することとしております。

過去勤務費用は、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の年数（12～14年）による定額法により按分した額を費用処理しております。

・未認識数理計算上の差異及び……………未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

理方法

(ハ) ヘッジ会計の方法……………a.ヘッジ会計の方法

為替予約が付されている外貨建金銭債務について、振当処理の要件を満たしている場合には振当処理を採用しております。

b.ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段……………為替予約

ヘッジ対象……………外貨建金銭債務

c.ヘッジ方針

将来発生することが確実な外貨建金銭債務に対し、為替変動によるキャッシュ・フロー変動リスクをヘッジしております。

d.ヘッジの有効性評価の方法

為替予約については、ヘッジ方針に基づき、同一通貨建てによる同一金額で同一期日の振当を行っており、その後の為替相場の変動による相関関係が確保されているため、連結決算日における有効性の評価を省略しております。

(ニ) のれんの償却方法及び償却期間……………のれんの償却については、その個別案件ごとに判断し、20年以内の合理的な年数で均等償却しております。なお、重要性の乏しいものについては、発生時に一括償却しております。

(ホ) 消費税等の会計処理……………税抜方式によっております。

2. 表示方法の変更に関する注記

（「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用）

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）を当連結会計年度の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しております。

### 3. 連結貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額	57,398百万円
(2) 担保資産及び担保付債務	
担保に供している資産は、次のとおりであります。	
建物及び構築物	1,125百万円
土地	3,986百万円
計	5,112百万円
担保付債務は、次のとおりであります。	
短期借入金	3,994百万円
長期借入金	4,694百万円
計	8,688百万円
(3) 保証債務	
金融機関等からの借入債務に対し、保証を行っております。	
台湾東販股份有限公司	57百万円
	(16百万NTドル)
上記の外貨建保証債務は決算日の為替相場により円換算しております。	

### 4. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 当連結会計年度末における発行済株式の種類及び総数	
普通株式	70,500,000株
(2) 配当に関する事項	
① 配当金支払額	
平成30年5月2日開催の取締役会決議による配当	
株式の種類	普通株式
配当金の総額	405百万円
一株当たり配当額	6円
基準日	平成30年3月31日
効力発生日	平成30年6月29日
② 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの	
令和元年5月9日開催の取締役会案として、次のとおり付議しております。	
株式の種類	普通株式
配当金の総額	469百万円
一株当たり配当額	7円
基準日	平成31年3月31日
効力発生日	令和元年6月28日

### 5. 金融商品に関する注記

#### (1) 金融商品の状況に関する事項

当社グループは、資金運用については資金計画に基づき、主として短期の運用は預金と債券により、長期の運用は債券を中心に行っております。また、運転資金については金融機関からの借入により調達しております。

受取手形及び売掛金に係る取引先の信用リスクに対しては、売掛金管理規程に基づき、定量、定性の両面から総合的に管理を行い、リスク低減を図っております。

投資有価証券は主として債券であります。株式も保有しており、市場性のある債券及び株式については半期ごとに時価の把握を行っております。

デリバティブ取引は、外貨建取引に係る為替変動リスク回避のために実施しており、投機的な取引は行わない方針であります。

#### (2) 金融商品の時価等に関する事項

平成31年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	連結貸借対照表計上額	時	価	差	額
① 現金及び預金	27,076		27,076		—
② 受取手形及び売掛金（※1）	109,070		108,845		△224
③ 有価証券	20,330		20,330		—
④ 短期金融資産	15,400		15,400		—
⑤ 投資有価証券					
満期保有目的の債券	41,289		41,079		△210
その他有価証券	4,409		4,409		—
子会社株式及び関連会社株式	2,619		2,744		124
⑥ 支払手形及び買掛金	174,101		174,101		—
⑦ デリバティブ取引（※2）	0		0		—

※1 上表の受取手形及び売掛金の連結貸借対照表計上額は貸倒引当金を控除した金額で記載しております。

※2 デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については（）で示しております。

#### ① 現金及び預金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にはほぼ等しいことから主として当該帳簿価額によっておりますが、一部の預金については取引金融機関から提示された価格によっております。

#### ② 受取手形及び売掛金

受取手形は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にはほぼ等しいことから当該帳簿価額によっており、売掛金の時価は、一定の期間ごとに区分した債権額を回収期間及び信用リスクを加味した利率により割引いた現在価値に基づき、将来のキャッシュ・フローを見積っております。

- ③ 有価証券  
短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にはば等しいことから当該帳簿価額によっております。
- ④ 短期金融資産  
短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にはば等しいことから当該帳簿価額によっております。
- ⑤ 投資有価証券  
市場性のある債券及び株式の時価は、その市場価格に基づき見積っており、市場性のない非上場株式（連結貸借対照表計上額7,289百円）は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることができないこと等により時価を把握することが極めて困難なため、投資有価証券には含めておりません。
- ⑥ 支払手形及び買掛金  
短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にはば等しいことから当該帳簿価額によっております。
- ⑦ デリバティブ取引  
デリバティブ取引は取引先金融機関等から提示された価格によっております。  
上記金額はその他流動資産に含まれております。

#### 6. 1株当たり情報に関する注記

1株当たり純資産額	1,568円14銭
1株当たり当期純利益	7円92銭

#### 7. その他

記載金額は百万円未満を切捨てて表示しております。